

小学校への読書活動用団体貸出について

年度初め、34小学校に貸出していた約7140冊の図書が、中央図書館に戻ってきました。
2校の小学校が活用の様子をお知らせくださったので、ご紹介します。



↓ 殿山第一小学校の様子

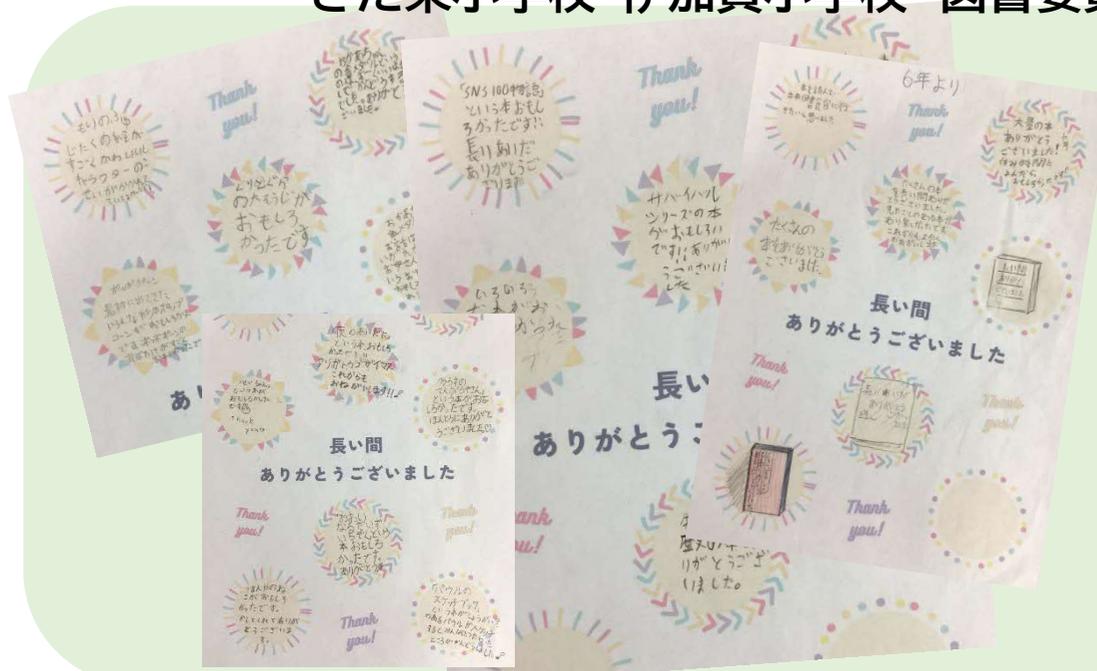


↑ 禁野小学校の様子

読書活動用団体貸出は、低・中・高学年別に各70冊の絵本・読み物・知識の本を透明のプラケース6箱に入れて、配送便で小学校へ届け、約9か月間、教室等で活用していただくものです。

禁野小学校では、教室の後ろに本を置いて、子どもたちが隙間時間に読んでいるそうです。気に入った本はあったかな？

さだ東小学校・伊加賀小学校 図書委員会の取組み



さだ東小学校と伊加賀小学校では、読書活動用団体貸出の図書を返す前に、図書委員が1冊1冊、本を拭く作業をしたそうです。

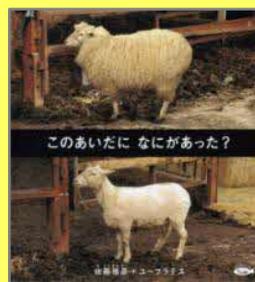
そして、感想のお手紙も送ってくれました。

ありがとうございました!!

学校司書のおすすめ本

学校司書連絡会では、毎回、本の情報交流を行っています。
児童・生徒に紹介したい本、授業支援に活用できる本、さまざまな情報が各学校司書からあげられます。
令和7年(2025年)度に取り上げられた本の中から、3冊をご紹介します。

『このあいだに なにがあった?』
佐藤雅彦+ユーフラテス/作
福音館書店



最初と最後の写真から間にあったことを推測する本です。

はじめにある出来事の最初と最後の写真があり、次のページに最初・間・最後の写真が現れます。一人で読むだけでなく、複数人でクイズのように楽しむこともできます。

『うみとりくのからだのはなし』
遠見才希子/作
佐々木一澄/絵 童心社



ふたごのうみとりくがそれぞれに感じることを通して、性に関して必要な知識を小さな子どもたちにもわかりやすく伝えることができる絵本です。

プライベートパーツのことについてもわかりやすく説明されています。

『日本に住んでる世界のひと』
金井真紀/著 大和書房



日本に住んでいる外国人は約358万人。留学や仕事のほか、戦争や社会の混乱から国外に逃げる必要があった人など、その理由はさまざま。そんな人々の暮らしを取材したのが本書です。

世界を知ること、日本を見つめ直すきっかけにもなれば…と願います。